

★全部は紹介しきれません★

Ra 写真教室

岡村博文(講師)紹介



日本を旅する 見る・撮る・残す

公益社団法人 日本写真協会正会員

岡村博文 H.Okamura

旅を楽しみながら風景や景色にカメラをむける

自分が「生きていた証」で感動するものを残すと決めた

少し上手になりたくて日々…勉強しています

私を知って欲しいので自己紹介をします！



<カメラマンになった経緯>

高校生時代から“ひとり旅が好き”で各地を、徒歩・自転車・単車・クルマ・電車・飛行機を使って27才までに“旅”として日本1周(沖縄県と離島は除く)を制覇した。



1994年頃

ジムニーで友人たちと林道・温泉・観光地などを巡り、旅の思い出を記念として写真で残すためにカメラ撮影を趣味として始めた。

クルマ旅で楽しかったことを写真・記事を雑誌社に投稿していたら何度も掲載されるようになった。

記事がモノクロからカラーにする為努力した。



この頃、ログハウスを建てたいという夢があった。

友人と7年かけて手作りで完成させた。

建設中に、夢を追いかける色々な凄い人に出会って知らない世界を知った。

ログハウス専門雑誌のカメラマンとも交流ができた。プロの室内撮影も見て勉強になった。



1999年頃

四輪駆動専門誌4×4MAGAZINE社よりレポーターとカメラマンを依頼されて取材をすることになって原稿料や撮影料で報酬を頂くようになった。

雑誌社から支給されるポジフィルムを思う存分使わせてもらってカメラ撮影の原点を勉強させて頂いた。

10年間のうちカメラ機材も次々と購入することになった。

撮影画像が、雑誌に掲載され恥ずかしくない写真を撮るために、撮影技術は独学でカメラ専門誌を(1度に十数冊購入)読みあさって習得した。



20年間のうちにプロと名の付くカメラマンと10名以上交流ができた。

また、取材撮影のノウハウやマナーは雑誌社の編集部や専属プロカメラマンさんから教えてもらい身に付けた。

2002年頃

旅をするなかで「生きてきた証」として画像で残すことに決めた。

本格的に撮影することを考えた時、過去に撮った写真に“朝陽と夕陽”が多いかった。日本中の朝陽と夕陽を「見る・撮る・残す」と決めて、「朝陽と夕陽を追いかける旅」と題して撮影旅を開始した。





私の撮影で忘れてはいけないクルマたち。撮影旅の足であり宿でもあるジムー。
カメラ機材が高額なためクルマは中古車だった。
乗り継いで・・・故障しながら全国を走り回った。
グリーンの LJ-20 は発売されて半世紀がすぎた。現在は車庫の中に眠っている。

2011年頃

2002年頃から作品を撮影させて頂いていた。

10年後にキルト雑誌の表紙を飾ることができた。

キルト作家の関田陽子さんの作品を撮影した画像がアメリカとヨーロッパ7ヶ国に発刊された雑誌の表紙を飾ることができた。

—写真展・個展・ロビー展等—

2007 第1回 朝日の彩色を写す ギャラリア風の巣

2008 第2回 平安からの時空 備後吉備津神社

2020 第3回 IKYU-SUN 折々の詩 福山市しんいち歴史民俗博物館

2023 第4回 陽の物語 府中市天満屋2F i-coreFUCHU

2023年

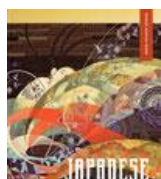
全国誌の雑誌に写真掲載や原稿を入稿するようになって20年以上。

現在は全国誌の「車中泊カーネル」を12年間続けている。

カラーページで60回の連載をこなしている。

2019年から全国の旅は4週目(撮影旅3周目)に入った。

沖縄県と離島が廻れていない。



※下記写真は海外や全国雑誌や限定版に掲載された BOOK です。

ポスター・パンフレット・チラシ・冊子・個展案内状・ハガキなどまだまだありますヨ！

雑誌の掲載で最初はモノクロで10cm角の面積からスタートして1ページまでが苦労した。

次はカラーページの1ページ・・・複数ページを獲得するのは大変でした。

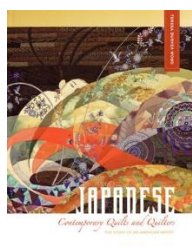
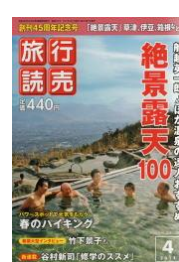
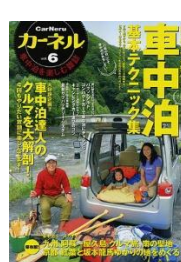
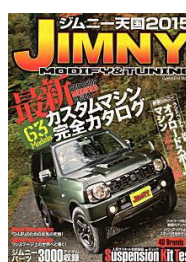
それに文字数も限定されるようになると・・・頭がおかしくなりそう。

そして怖いのは、原稿入稿の締め切り日で雑誌に掲載されると次の催促が始まる。

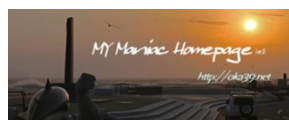
もっと学生時代に勉強をしておけば良かったと反省するがもう遅し！

しかし、書店に1度に4種類の雑誌が並んだことがありました。

涙が出るくらい嬉しかった！



※もう少し詳細が知りたい方は下記のホームページへどうぞ！



<http://oka39.net>

Ra 写真教室

2023